

令和 5 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	88	学校名	県立古河第三高等学校				課程	全日制		学校長名	早川 尚人					
教頭名	見川 浩史								事務(室)長名	鈴木 直治						
教職員数	教諭	42	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	4	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	3	計	57
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	131	100	113	98	114	99			358	297	18				

2 目指す学校像

<p>「自立・敬愛・創造」の校訓のもと、一人一人の個性と資質・能力の伸長を図り、広く社会に貢献することができる人材を育成する。</p> <p>○自ら学び、考え、判断し、行動できる生徒を育む学校</p> <p>○自他共に尊重し、思いやりの心にあふれた生徒を育む学校</p> <p>○柔軟な思考で、気概を持って未来を切り拓く力をそなえた生徒を育む学校</p>

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

<p>育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<p>「自立・敬愛・創造」の校訓のもと、一人一人の個性と資質・能力の伸長を図り、広く社会に貢献することができる人材を育成する。</p> <p>○自ら学び、考え、判断し、行動できる生徒。</p> <p>○自他共に尊重し、思いやりの心にあふれた生徒。</p> <p>○柔軟な思考で、気概を持って未来を切り拓く力をそなえた生徒。</p>
---	---

別紙様式 1 (高)

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>○授業こそが最も実力を上げる場であることを浸透させ、三年間の生徒育成計画のもと密度の濃い授業の実践・研究を図る。 ○部活動・特別活動及びボランティア活動等の体験活動や道徳・探究の授業を通して、多様な人々との対話のなかでコミュニケーションをとりながら社会貢献を目指すグローバル市民の育成を図る。 ○確かな学力をもとに将来への目標を生徒自ら設定し、進路希望実現のために邁進できるアクティブラーナーを育成する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>○意欲にあふれ、自ら学び行動する生徒。 ○多様性を尊重し、対話を通じてコミュニケーションをとりながら社会への貢献を目指す生徒。 ○将来、地域の政治・経済・文化等を牽引することができる生徒。</p>

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	多くの生徒は授業に集中して取り組んでいるが、向学心や探究心がやや不足している。	生徒の学びの姿勢が受動的である。「主体的・対話的で深い学び」を実現するための改善を図る。
進学指導	第一志望現役合格 136 名 (60.6%) であった。進路目標が曖昧で主体的に情報収集や学習活動もできていない生徒が増えている。	進路目標を明確化できるよう、探究活動やキャリア教育等を通じ、「自己発見・発展」の支援を強化し、第一志望現役合格を 50%以上にする。
生徒指導	SNS の不適切な使用によるトラブルが昨年度は報告されていないがいつ起こっても不思議ではなく、引き続き注意が必要である。	新入生向けの安全教室や様々な場面での注意喚起が必要。また、家庭でルール・マナーについて話し合い、ルールづくりをしてもらう。
特別活動	生徒による行事の自主運営が活発化しているが、準備のための時間が不足している。	生徒の自主的な活動時間確保のために、準備の効率化と適切な助言や支援が必要である。
働き方改革	一定の効果は見られるが、1ヶ月の超過勤務が45時間を超える教員が、まだ 20%程度存在している。	業務のスリム化、効率化や業務の均等化等を推進し、さらに超過勤務時間の減少を図る。

5 中期的目標

1	授業こそが最も実力を上げる場であることを浸透させ、三年間の生徒育成計画のもと密度の濃い授業の実践・研究を図る。
2	部活動・特別活動及びボランティア活動等の体験活動や道徳・探究の授業を通して、多様な人々との対話のなかでコミュニケーションをとりながら社会貢献を目指すグローバル市民の育成を図る。
3	確かな学力をもとに将来への目標を生徒自ら設定し、進路希望実現のために邁進できるアクティブラーナーを育成する。
4	伝統を受け継ぎ、生徒・保護者・地域の人々及び教職員全員で、地域の期待に応える開かれた活力ある理想的な公立高校を目指す。
5	働き方改革の推進に向けて、業務のスリム化や効率化、均等化を工夫し超過勤務時間の減少を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 生徒が希望する上級学校進学を実現する	①1年「自己発見」2年「自己発展」3年「自己実現」をめざし、進路行事や面談、普段の対話から生徒の知っている世界を広げる。 ②進路講演会、「進路だより」の発行、学校ホームページ等を活用して生徒・保護者に適切な情報を提供し、動機付けをする。 ③上級学校の公開講座の受講、オープンキャンパスへの参加を促し、職業・大学・学部・学科について理解を深める。
2 家庭学習の習慣化	④外部模試結果等の分析を定期的実施するとともに効率的な運用により、学習意欲を向上させ、学習時間を増進させる。 ⑤シラバスや生徒意識調査結果等を生徒に提供し、進路実現に必要な学習時間を定量的に分析し、生徒自身に中・長期的学習計画を立てることの重要性を認識させる。
3 豊かな人間性を身につけるための取り組み	⑥授業や課外活動を通して生徒の自己有用感を高揚させ、生徒の自律・自立の心を育てる。 ⑦豊かな人間性を育むために、教養講座や、図書館の蔵書を有効に活用する。 ⑧集団活動や体験活動を通して生徒の社会性を育み、併せて実践力の向上に努める。 ⑨部活動・生徒会活動・JRC委員会・学校行事など教科外活動を充実させ、キャリア・パスポートを活用して責任を持って行動する態度を育てる。

別紙様式 1 (高)

4 広報活動の充実	⑩学校公開・中学校訪問・塾訪問・ホームページの活用を通して、小・中学生やその保護者や教員に対して、積極的に本校の良さをアピールする。
5 個に対応した指導	⑪生徒との信頼関係を築くため、担任との三者面談週間を少なくとも年2回実施する。また、二者面談も積極的に実施する。 ⑫学習指導要領に対応した授業進度・レベルを再考し、理解力向上を図る。
6 学校安全の徹底	⑬学期毎に実施する定期点検の内容と精度を高め、全職員・全生徒の防災意識を高め、危機察知能力の向上を図り、安全安心な学校環境を実現する。
7 働き方改革の推進	⑭みんなで協力する体制づくりをすると共に、時差出勤制度を積極的に活用し超過勤務時間の減少を図る。
8 授業改善	⑮生徒の学力向上のため授業第一主義を掲げ、授業力向上を意識し、教員相互の授業見学を定期的実施するなど、授業の質向上を図り、生徒の授業満足度 80%以上を目指す。